

## 平成 23 年度第 5 回 IODP 部会執行部会

日時:2011 年 10 月 14 日(金)14:30~16:30(予定)

場所:文部科学省 13 階 1 会議室

出席者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所) 木村純一(海洋研究開発機構)  
鈴木庸平(東京大学) 辻 健(京都大学) 中西正男(千葉大学) 中村恭之(海洋研究開発機構)  
森田澄人(産業技術総合研究所) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

CDEX:肥田慎司

文部科学省海洋地球課:柴田晋吾 倉本真一 三木清香

IODP-MI:川村善久

事務局:菊田宏之 梅津慶太(CDEX)

欠席者:井上麻夕里(東京大学大気海洋研究所) 小林励司(鹿児島大学)

七山 太(産業技術総合研究所) 道林克禎(静岡大学) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)  
村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)

### 議事次第(案)【担当(敬称略)】

1. Post-2013 のフレームワーク再検討に関する現状【MEXT】
2. 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 1
3. J-DESC 活動【事務局】
  - ・JpGU 地球掘削科学セッション .....資料 2
  - ・会員提案型活動経費報告.....資料 3
  - ・イベント報告
  - ・専門部会再編について
4. CDEX 報告【CDEX】
5. 乗船後研究支援、IODP 掘削フィジビリティ研究の報告 .....資料 4
6. その他

### 配布資料

- 資料 1 IODP 掘削航海関連情報、Exps. 343, 338 Call for Applications  
資料 2 JpGU 地球掘削科学セッション提案情報  
資料 3 平成 23 年度会員提案型活動経費申請・採択一覧(10/13 時点)  
資料 4 乗船後研究、IODP 掘削フィジビリティ研究一覧

## 議事録(案)

### 1. Post-2013 のフレームワーク再検討に関する現状【MEXT】

文科省柴田氏より説明がなされた。

- NSF からのレターの後、各所からレターが出された。J-DESC からのレター以降はこのような動きはない。
- その後、9月中旬に欧州に MEXT と JAMSTEC のメンバーが訪問し、ちきゅうの運用等に関する基本的考え方の説明をした(その直後に欧州とアメリカも会合を持ったようだ)。
- 日本やアメリカとの会合を受けて、欧州からの提案が先週届いた。
- NSF からも、欧州の提案に基づいた考えのレターが届いた。
- 現在は MEXT からの考えを伝える必要がある状態。
- 11月初頭に ECORD council があり、MEXT、NSF からも参加する予定。
- AGU においても三者で会合を行う。
- それまでにある程度合意がなされれば、1月の IWG+@Goa で合意に達する見込み。
- Platform Provider 同士での乗船枠のやり取りのルールは決まっていない。
- 「ちきゅう」は基本的にはワークショップ方式でプロジェクトを形成していくつもりであるが具体的なポリシーは検討中である。

### ECORD の考え

- 国際協調は必要であり、最低限の SAS や CMO も必要と考える。
- 三者 (IO) でそれぞれ Governing Board を持つ。人材もお互いの GB に出す (1名ずつなど)。
- 委員会は一つでよい (具体的な)
- 現在の CMO の機能のうち、ほとんどを IO に移管する。主に SAS のロジなどを行う。ヨーロッパの大学に置く。
- IODP Forum
- JR に対しては毎年システマチックにお金を出す。
- 欧州の科学的興味にかなうプロジェクトがあれば、ちきゅうに対して 10M\$ 単位でお金を出すつもりがある。
- MSP は毎年 1 航海実施する見込みであり、これまで Comingled fund に供出していたお金の一部を JR、その残りを MSP の運航に充てるようだ。

### NSF の考え

- SAS は JR、「ちきゅう」、MSP すべてに共通するものを立ち上げる。PEP のみ残し、SIPCom を廃止。SCP、EPSP、STP は Essential な Service Panel である。
- SAS 委員は国際チームで構成されるがナショナルバランスは廃止。ピュアサイエンスで人選する。
- CMO は Planning Office として機能する。
- JR のための Facility Governing Board を設置し、従来の ODP 方式で出資者を募集する。出資者は FGB にメンバーを出すことができる。3M\$/年で各航海 2 名乗船することができる。←欧州は 6M\$ で 4 名の枠を譲り受けるつもりのものである。
- 乗船枠は日米欧で個々に取り決めを行う
- IWG+ を早期に解消し、IODP Forum を 1 月から始めたい。

### J-DESC に関わる案件について

- J-DESC としては、プロポーザル提案、乗船、サンプルリクエストがこれまで通りすべての掘削船において担保されることが重要と考えている。
- 今後、以下のような問題が出てくるはずであり、フレームワークの姿がある程度見えてきたら検討すべき課題である。
  - J-DESC の会費は 10 万円/年であるが、JR の乗船枠が減少すれば、この価値が下がってしまうかもしれない。そうなった場合、会費の見直しが必要になるのではないかな？
  - 国際フレームワークが残る以上は J-DESC の持つ役割は変わらないが、国際プロジェクトとしての傘がなくなった場合、J-DESC は誰のために活動するのか？
- 乗船枠がどの程度あれば十分かについては、JR や MSP、ちきゅうなどプラットフォーム毎で一概に言えるわけではなく、航海のテーマや海域などで開きがある。
- これまでの実績の平均的なところ言えば、乗船枠は 5~6 あたりが妥当なラインという印象はある。

資料 1 に基づき、事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ちきゅうの航海スケジュールは、2012 年 4 月~5 月に Exp. 343 J-FAST (Rapid Response Drilling)、7 月~9 月に Exp. 337 下北、9 月~2013 年 1 月に NanTroSEIZE Deep Riser-2 となっている。
- ・JR は現在 Exp. 336 Mid-Atlantic を掘削中、終了後 Exp. 339 地中海アウトフロー(2011 年 11 月~2012 年 1 月)、Exp. 340 Lesser Antilles(2012 年 2 月~3 月)、Exp. 342 Newfoundland(6 月~8 月)、Exp. 344 CRISP2(10 月~12 月)、Exp. 345 Hess Deep(12 月~2013 年 2 月)、Exp. 341 South Alaska(2013 年 5 月~7 月)、Exp. 346 Asian Monsoon(8 月~9 月)と続き、2013 年までのスケジュールが決定している。
- ・MSP は FY13 に Baltic Sea、FY14 に Chicxulub Crater の航海を実施予定。
- ・現在、JR の航海 2 つ(Exps. 344, 345)、ちきゅうの航海 2 つ(Exp. 338, 343)の合計 4 航海について乗船者を募集中。募集中のすべての航海において専門の制限は無し。
  
- ・Exp. 338 は昨年 1 度募集を行った結果 9 名の申し込みがあった。しかし CDEX にリストを提出する前に延期が発表されたため、乗船者は決定していない。応募者には事務局より再度応募してもらうようにメールを送った。
- ・今のところ、人材不足が懸念される航海は Hess Deep(岩石関連の航海)であり、コミュニティーが小さいため、拡大を目指す必要がある。

### 3. J-DESC 活動【事務局】

・JpGU 地球掘削科学セッション .....資料 2

事務局より、資料 2 に基づき説明がなされた。

- ・来年の地球掘削科学セッションの提案に向けて井上委員が中心となって検討を行っている。
- ・提案の内容はほぼ昨年と同じ。
- ・代表コンビナーは沖野氏から井上委員に交代。
- ・共同コンビナーは井龍氏(陸上掘削部会)、辻委員、鈴木委員、梅津(昨年の共同コンビナーは井龍氏、金松氏、鈴木委員、梅津であった)。

### 合意項目(111014-01):地球掘削科学セッションの提案について、原案を承認する。

・会員提案型活動経費報告 .....資料 3

事務局より、資料 3 に基づき説明がなされた。

- ・前回までに 4 件の応募があり、今回、ニューイヤースクールの提案が 1 件あり、審査の結果満額にて採択となった。
- ・今回提案されたニューイヤースクールは大阪で来年 1 月 7、8 日に開催される。毎年 100 名ほどが参加する。
- ・今年度の会員提案型活動経費の予算は 120 万円積んでおり、現在までの採択額の合計は 110 万円。

### ・イベント報告

事務局より標記の件について報告がなされた。

#### IODP キャンペーン@東北大学オープンキャンパス

- ・10 月 8、9 日に東北大学のオープンキャンパス(片平まつり)にて IODP キャンペーンを実施した。
- ・講演会として、日野氏と平野氏(両名とも東北大学)に東北沖地震掘削、火山(シャツキーライズ)掘削に関する講演をしていただいた。聴講者は 110 名であった。

#### 国際海底地すべりシンポジウム@京都

- ・10 月 24~26 日に京都で国際海底地すべりシンポジウムが開催され、J-DESC は会員提案型活動経費での支援およびブース出展(1 ブース分 5 万円)を行う。
- ・ブース出展内容はポスターとパンフレット類の配布であり、事務局にて準備し京都に送り、森田委員と辻委員が当日掲示・展開を行う。

### ・専門部会再編について

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・当初 SAS の改組に基づき、国内専門部会も再編しようと計画していたが、NSF からのレターの件があり、2013 年以降のフレームワークがはっきりしていない段階で国内体制を検討するのは時期早尚であると川幡部会長と西部会長補佐が判断した。

**合意項目 (111014-02) :**これまでの国内体制を継続し、新 SAS で引き継がれたパネルをそれぞれの専門部会にてサポートする。2013 年以降のフレームワークが見えてきた段階で検討を再開する。

- ・(SSEP、SPC、SASEC と同様に) PEP と SIPCom をサポートする専門部会はなく、人選等は執行部にて取り仕切ることになる。
- ・PEP と SIPCom の第 1 回会議はそれぞれの方針等を決定する重要な会議となると思われるため、事前に委員が議論のポイントを押さえておくべきである。

**合意項目 (111014-03) :**PEP および SIPCom の事前打ち合わせを開催することを、各委員に要請する。

#### 4. CDEX 報告【CDEX】

CDEX 肥田氏より説明がなされた。

- ・現在、スリランカにおいて 1 月までの予定で資源掘削中。帰国後は 2 月に JOGMEC のメタハイ産出試験掘削を 3 月半ばまで実施。その後 Exp. 343 に向かう。さらにその後、スラスターの搭載のためドック入り(場所は今年中に決定)。その後、Exp. 337 下北。さらにその後、Exp. 338 南海掘削の予定。
- ・2012、13、14 年度は南海掘削を進める。2012 年度に 3,600m、13 年度に 5,000m の Spray Fault まで到達する予定で、プレート境界まで掘削するにはもう 1 年かかる見込み。
- ・次のフェーズではプロジェクトベースで、コミュニティ全体でプロジェクトを育てていく形で「ちきゅう」の掘削を進めていきたいというのが MEXT と JAMSTEC の間で共通認識がある。プロジェクトごとに外部資金を調達できるような仕組みを作ることを検討している。
- ・「ちきゅう」は計画から掘削まで 4 年ほどかかるため、南海掘削の後のプロジェクトを決めるデッドラインが迫っている。

#### 5. 乗船後研究支援、IODP 掘削フィジビリティ研究の報告.....資料 4

事務局より資料 4 に基づき標記の件について報告がなされた。

- ・今年度より、掘削研究フィジビリティ研究として IODP プロポーザル作成支援、乗船後研究委託事業として乗船後の研究費支援を開始した。
- ・フィジビリティ研究は、今年度 3 件応募があり、小川委員会での審査・助言の下、2 件を採択。
- ・乗船後研究委託は 2009 年 3 月以降実施の掘削航海を対象として、12 件を採択。
- ・乗船後研究は KANAME や TIGA など、掘削研究に使える科研費がある場合は、申請をご遠慮いただいている。科研費と乗船後研究委託の内容を明確に切り分けることができる場合はその限りではない。

以下、実際に手続きを行っている執行部委員のコメント

- ・書類が煩雑。特に積み上げ予算がかなり負担になる。
- ・どの程度予算を詳しく書けばよいか最初は分からない。
- ・もう少し手続きが簡素になってほしい。

**合意項目 (111014-04) :**予算積み上げ例(ひな型)を今後の新規書類作成者に示すことを要請する。

#### 6. その他

・深海掘削検討会について

- ・JAMSTEC が設置している深海掘削検討会が国際に向けたレターをドラフティングしていた。
- ・そのドラフトの中に Japan Consortium for Ocean Drilling の表記があり、これはいったい何をさしているのか？ J-DESC ではない別の同じような名前がついた組織からこのような文書が発信されると国際コミュニティは混乱するのではないか？との連絡をしたが事務局から返信はなかった。

・陸上掘削部会との連携について

- ・今年度現在までの陸上掘削部会の執行部会開催回数は 1 回。

- ・予算の執行状況については事務局では把握していない。

合意項目(111014-05):陸上掘削部会との合同会議の開催を陸上掘削部会に打診するとともに、今年度の活動や予算の執行を着実に進めてもらうよう要請する。